

**製品名: TBP マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM82273**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	37.7kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TBP
別名	HDL4; GTF2D; SCA17; TFIID; GTF2D1
遺伝子 ID	6908.0
SwissProt ID	P20226
免疫原	大腸菌で発現したヒト TBP (AA: 1-144) の精製された組み換え断片。

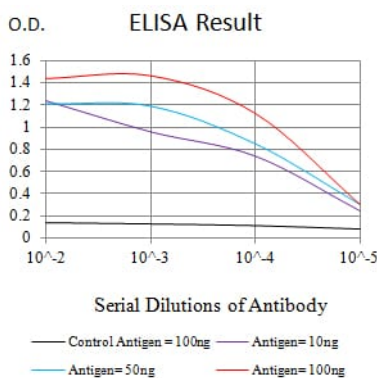
**背景**

RNA ポリメラーゼ II による転写の開始には、70 を超えるポリペプチドの活性が必要です。これらの活性を調整するタンパク質が転写因子 IID (TFIID) です。これはコアプロモーターに結合してポリメラーゼを適切に配置し、転写複合体の残りの部分を組み立てるた

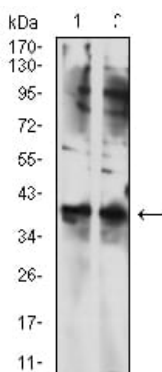
めの足場として機能し、制御シグナルのチャンネルとして機能します。TFIID は、TATA 結合タンパク質 (TBP) と、TBP 関連因子または TAF として知られる進化的に保存されたタンパク質群で構成されています。TAF は、基礎転写に関与し、コアクチベーターとして機能し、プロモーター認識に機能し、または一般転写因子 (GTF) を変更して複合体の組み立てと転写開始を促進します。この遺伝子は、TATA 結合タンパク質である TBP をコードしています。TBP の特徴的な特徴は、N 末端の長いグルタミン鎖です。このタンパク質領域は C 末端の DNA 結合活性を調節し、DNA 結合の調節は転写複合体の形成速度と転写開始に影響を及ぼす。ポリグルタミン鎖をコードする CAG リピート数は通常 25~42 であり、リピート数が 45~66 に増加するとポリグルタミン鎖の長さが増加し、ポリグルタミン病に分類される神経変性疾患である脊髄小脳失調症 17 と関連している。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2016 年 7 月]

## 研究分野

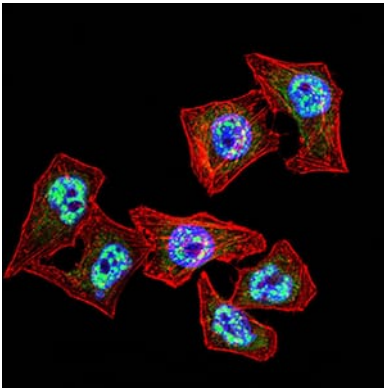
## 画像データ



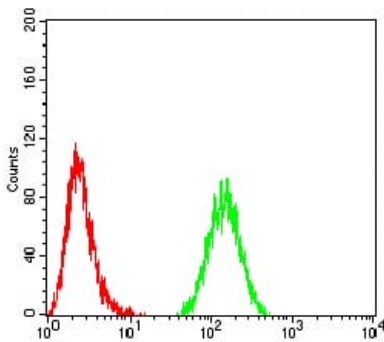
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



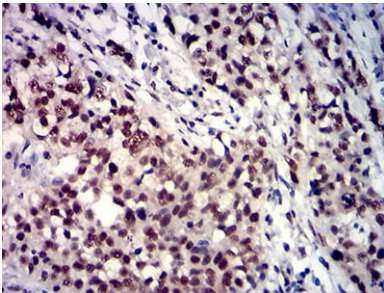
NIH/3T3 (1) および SK-N-SH (2) 細胞溶解物に対する TBP マウス mAb を用いたウエスタンブロット分析。



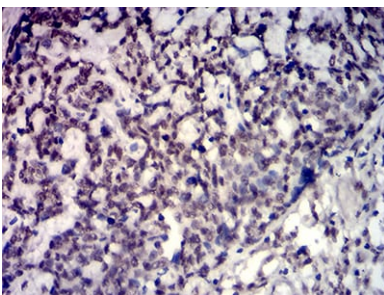
TBP マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



TBP マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。



DAB 染色による TBP マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト膀胱癌組織の免疫組織化学分析。



DAB 染色を伴う TBP マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト食道癌組織の免疫組織化学分析。